

茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和元年(2019年)12月

1 東京都中央卸売市場(2019年1-11月)の青果物取扱高について

① 全体の入荷量は約173万tで、前年比1%増、金額は約4,811億円で前年比7%減となった。

② 茨城県産の入荷量は約20万tで、前年比1%減、金額は約479億円で前年比9%減となった。

(金額の内訳は、野菜約396億円、果実約84億円。前年同期比で野菜11%減、果実2%減、平年同期比で野菜10%減、果実1%増。)

金額が【増加】した品目(前年対比)：かんしょ(104%)、いちご類(104%)

金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(54%)、みず菜(79%)、こまつな・きゅうり(92%)、メロン類(96%)

茨城県の青果物入荷量は平年比3%減(シェア11.4%)、取扱金額は同8%減(シェア10.0%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1-11月計)			
	1-11月計	年間計	年間比	1-11月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	2019	1,734,284		198,486	←シェア(11.4%)		10.3%	11.1%	3.3%	
	H30	1,724,716	1,907,279	90.4	201,338	225,946	89.1	10.6%	10.9%	3.5%
	(前年比)	101			99	シェア(11.7%)				
	平年値※	1,792,900	1,978,757	90.6	204,095	228,350	89.4			
	(平年比)	97			97	シェア(11.4%)				
金額	2019	481,148		47,928	←シェア(10.0%)		7.2%	6.0%	6.0%	
	H30	515,692	568,808	90.7	52,871	56,745	93.2	7.7%	6.3%	5.7%
	(前年比)	93			91	シェア(10.3%)				
	平年値※	508,018	563,980	90.1	52,320	57,101	91.6			
	(平年比)	95			92	シェア(10.3%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
平成30年実績
(1-12月計)

茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)
千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)
北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)
栃木県：金額シェア(5.8%)、数量シェア(3.4%)

2 東京都中央卸売市場(令和元年11月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約25.2千トン(89%)、単価は180円(124%)、金額は約45.5億円(111%)

果実類の入荷量は約0.3千トン(98%)、単価は963円(108%)、金額は約2.6億円(106%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	はくさい	11,449	97%	100%	113%	65	148%	99%	99%	746,126	142%	99%
	レタス類	3,064	66%	68%	100%	241	164%	119%	122%	737,509	107%	81%
	ピーマン	944	84%	97%	113%	405	98%	99%	97%	382,135	82%	96%
	れんこん	905	106%	106%	104%	401	107%	91%	91%	363,012	113%	96%
	野菜総計	25,213	89%	94%	100%	180	124%	102%	102%	4,546,504	111%	97%
果実	いちご類	82	88%	109%	102%	1,824	105%	114%	105%	150,309	93%	124%
	果実総計	268	98%	99%	98%	963	108%	122%	108%	257,615	106%	121%

(野菜)

台風や大雨の影響を受け入荷量が減少し単価高となった品目が多くみられた。

本県産農産物も影響を受け、特にレタス類は病害発生による廃棄や日照不足からの小玉傾向で、出荷量が伸びず前年・平年を大幅に下回った。しかし、前年が野菜類全体で入荷量急増による単価安だったこともあり、単価は前年・平年を上回った。

(果実)

いちご類は関東近県産地で台風影響があり、主産県の栃木は前年比2割減となったが、天候に恵まれた九州産地からの出荷量が増え、全体では前年比1割減程度となった。みかん類は前年比でやや少なかったものの、りんご類、柿類は多く、果実全体の数量は前年より多く、平年をやや下回った。

本県のいちご類も台風等の影響で生育の遅れがあり、出荷が前進した前年を下回るものの、平年は上回った。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出